

## Metro 第 36 号

「第 74 回国連総会：変化する世界秩序の下で？」

投稿文（日本語訳文）

2019 年 9 月 18 日掲載

東郷和彦

昨年 9 月 Metro14 号で第 73 回国連総会が取り上げられた際に、北朝鮮、イラン、核軍縮の三つの問題を指摘した。これらの問題は、第 74 回国連総会でも真剣に考えられるべき問題である。

北朝鮮の非核化問題については、2019 年 2 月 27 日～28 日ハノイでの米朝首脳会談は決裂したが、6 月 30 日大阪 G20 の後のトランプの訪韓を活用して、板門店での米朝首脳会談が行われた。トランプはそこで「我々の問題にしているのは長距離弾道ミサイルだ」と明言。

この発言をうけて、7 月 25 日から 8 月 24 日まで 7 回にわたり北朝鮮は、短距離弾道ミサイルをうちあげた。これまでの国連決議は、ミサイルの距離による差別化をしていない。北朝鮮の非核化問題を現実に進め得る方策として、トランプのアプローチには考えるべきものがあると思うが、しかし安保理としてここに検討すべき重要課題があるのは間違いない。

イランをめぐる事態は、過去一年一層不安定化している。15 年核合意を受け入れないトランプ政権は、18 年 11 月イラン産原油の禁輸制裁を再発動。19 年 5 月 2 日制裁の一層厳格な適用を開始、反発したイランのロウハニ大統領は 5 月 8 日核合意の一部からの離脱を声明。

この夏幾つかの出来事が、事態を緊迫化させてきた。①5 月 12 日サウジなど 4 隻の石油タンカーへの攻撃が発生。②6 月 13 日安倍総理のテヘラン訪問中の折も折、ホルムズ海峡付近で日本の海運会社運営のタンカーなど 2 隻が攻撃を受ける。これに対し 7 月 9 日ダンフォード統合参謀本部議長は「シーレーンの安全確保のための有志連合」結成について関係国と協議中であることを表明。

更に③7 月 4 日英領ジブラルタル自治政府がイラン産原油を積んだタンカーを拿捕、④7 月 10 日イランの「イスラム革命防衛隊」による英国籍タンカー拿捕未遂事件が発生、⑤7 月 19 日には英船籍タンカー「ステナ・インペロ」がホルムズ海峡でイランにより拿捕された。

イギリス政府は 7 月 22 日米国とは別の独自の連合構想を独仏とともに模索し始めた。一方ロシアは 7 月 23 日「反テロ連合」としての「ペルシャ湾の集団安全保障」構想を提案。他方新たに成立したジョンソン政権は 8 月 5 日米国主導の有志連合への参加を表明。錯綜する事態を前に、安保理としていかにしてホ

ルムズ海峡の安全を確保するか、鼎の軽重を問われる問題が浮上している。

更に冷戦期の核管理と核軍縮の構造の一つが揺らぎ始めた。トランプ政権は2019年2月2日、ロシアの条約違反と中国の猛烈な戦力強化を理由に、INF全廃条約の廃棄にふみきり、同日ロシアも直に履行義務を停止、条約は同年8月2日に失効した。

しかし「変化する世界秩序」の観点から過去一年の世界の戦略バランスを振り返る時、この問題の背景に、ロシアが急激に開発し始めた対敵大規模攻撃力の大幅な強化（Metro24、2019年3月6日拙論参照）と、サイバー・宇宙・ドローン・AI・ビッグデータ等の新技術分野における中国の急成長という二つの側面があることを考慮しないわけにはいかない。国連安保理においてこれらの分野における政治的、法的新規範をどう考えるか、巨大な課題が今浮上していると言えよう。